

「国際社会を生きていく」

8月3日、私達は仙台を出発し、日本の首都東京へと向かいました。降り立ったそこには、仙台とは比べ物にならないほどの人が溢れていて、何もしていなくとも疲れを感じてしまうくらいでした。

ディレクトフォースのメンバーに連れられて行った国際会議場は、設備の整った素晴らしい会場でした。机に折りたたみの筆記用テーブルが付いていて、椅子には資料とペン、ペットボトルのお茶があり、とても驚きました。その会場では、国際機関で働く人々の様々な視点からのお話を伺いました。

初めに、前国際エネルギー機関の事務局長を務められていた笹川平和財団の理事長田中信男氏のお話を伺いました。話の中でも一番興味深かったのは、事務局長になるにも政治的な駆け引きが必要だ、ということでした。田中さんが前の政権のときの安倍晋三首相と笑顔でいる写真や、小泉首相と仲良く見える写真を撮って、世界に「自分は国を以てして認められ、期待されている人物なんだ!」とアピールすることで、各国の信頼を得て、事務局長の選挙で多くの票数を集めることが出来る、と仰っていました。そこで私は、どこに行ってもコミュニケーション能力が高いことは武器になるのだ、と思いました。いくら頭が良くても、他人に伝わらなければ意味がないというのは正にこの事ではないかと思いました。今の時代では、英語が話せるのなんて当たり前です。国際社会を生き抜いていく上で必要不可欠な存在です。英語で、相手にわかるように、いや説得しわからせて納得させるまで話が出来ること。コミュニケーション能力が高いということの中には、他人と上手くやっけていける以外にも自分の良いところを知り、いかにアピールできるか、という問題が内包されているように思いました。私は自分のことが未だによくわかりません。長所、短所、視点を変えれば同じようにくるくると変わってしまう自分自身のことを、知ることなんて不可能に近いと諦めていました。高校に入学して、得意なことも何だかよくわからなくなりました。然し、田中さんの話を聞いて、自分を知っていくことを怖がってはいけないのだと思えるようになりました。この点において、少し成長出来たのではないかな、と感じています。

次に、元ブリジストン常務の藤村峯一さんからお話を伺いました。藤村さんはスタッドレスタイヤの名付け親で、ブリジストンがFSを買収統合した際に会社に居て、その後欧州本社にいらっしゃったということで、話を聞くのを楽しみにしていました。藤村さん曰く、「生き残るのは、最強ではなく、環境に適応。」だそうです。そのためには、個性を磨き、会社では即戦力となれるようにすることが大事とも仰っていました。いろんな人の話をよく聞き、自分のものにする。キャリアは自分で作り出すこと。そして、リスクも多いがその分チャンスも多い外国の企業スタイルに適応すること。これが、世界の経営者のトップになることへの布石となるそうです。藤村さんは、何故ブリジストンに入社したのですか、という質問に対して、「世の人のため」と答えておられました。これが日本人が1割しかいない中での常務の答えか、と納得しました。最後に、藤村さんは私たちに言い残すように「ロジカルシンキングを大事にするべきだ」と言いました。それは、初めに話を伺った田中さんとも被るようで、相手に伝わるようにすることが必要だと改めてわかりました。

三番目には、保険会社に勤めておられた山田さんから話を伺いました。山田さんは理事長の田中さんの同期で、大学の国際関係のクラブでも一緒に腐れ縁なんだよと楽しそうに仰っておられたのが印象に残っています。何故保険会社に勤めようと思ったのですか、という質問がありま

した。端的に言うと、「偶然。」だそうです。山田さんの就職しようと思ったところは、初めは三井などの大手企業だったそうです。のんびり行こう、まだ間に合うとトルコなどの西アジアを巡って3月に帰って来たときには、なんと大手企業の就職申込みは終わっていたそうです。この時代は高度経済成長期真っ最中。大手企業の青田買いが進み、大学3年生で既に就職が決まってしまう時代でした。田中さんと一緒にクラブで外国を旅して回っていた山田さんはそんなことも露知らず、偶然残っていた保険会社に

エイヤッと入社せざるを得なかった、ということでした。

その会社に25年間勤めたあと、限界を感じたことと、より国際的に視野を広げたい、ということで保険ブローカーへと転職したそうです。ディレクトフォースの方々の話を伺っていて、「転職」の言葉をよく耳にしました。その響きには世間一般で思われているような悪いイメージなど一欠片もなく、純粋に自分のしたいことを追求していく姿勢が現れているのではないのか、と感じました。

転職した山田さんの就いた保険ブローカーとは、お客様の為に、その人の代わりに保険を見つけていく仕事のことです。日本でも1997年に許可されたばかりの新しい仕事と言えます。保険代理店は保険会社の利益代表であるのに対し、保険ブローカーはお客様の為に、という姿勢であることが大きな違いと言えるでしょう。山田さんは、保険ブローカーの大手企業であるイギリスのウィリスという会社のロンドン支店に勤め、ヨーロッパに進出をしている日本企業のための保険を斡旋していたそうです。その後、日本支店に移り、ジャパンプラクティスリーダーとなったそうです。世界を代表する保険会社の日本支店でリーダーになってしまうなんて、なんて凄いのだろうと思いました。山田さんからは、EUからのイギリス脱退についても面白い話を聞かせていただきました。EUで連携していると、植民地から多くの人がやってきて、本国の底辺の仕事を奪ってしまうのだそうです。そこで、本来ならば仕事があったはずの人達の不満が高まることになりました。「キャメロンがおバカにも国民投票なんかしたからだよ。」と山田さんはいっていましたが、仮にも一国の代表を「おバカ」と一蹴する山田さんが凄いと思いました。山田さんがキャメロン首相をおバカといったのにはちゃんと理由があります。若しイギリスが本当にEUから脱退したら、時代の大きなうねりがやってくる、と山田さんは言いました。世界が予測できなくなってしまうというデメリットが発生するのです。もう既に進んでいる、避けることはできないグローバリゼーションがどうなるのか。確かに、一時的には独立主義が起きて成功したように見えるかも知れません。しかし、もう戻れないところまで来てしまっているグローバリゼーションの中でどう生きていくか、が問題となって申し掛かって来るのです。自分たちだけが心地良い世界なども望めないのです。なんと厳しいことを、と思いましたが、考えてみれば私達の身の回りには外国産の製品がこれでもかというほどに溢れかえっています。そこで、またもやコミュニケーション能力とロジカルシンキングが大切になって来るのです。コミュニケーションが今の私達のような程度ですむほどには、世界は甘くありません。全てを説得する力を、コミュニケーション能力とロジカルシンキングによって手に入れろと言っておられました。英語だけでなく、ほかの様々な国の言語も出来るだけ学ぶべきだ、とも言っておられました。最後に、もし高校一年生に戻れたなら、、、、という小さなプリントをくれました。そこには、世界のトップ500経営者になる、東大よりハーバード、論理思考、話術、数学と大きく書かれていました。世界のトップ500経営者は、世界への影響力とお金をもって豊かな人生にしたいからだそうです。また、東大よりハーバードの意味として!世界のリーダーと友達になる、と言っておられました。大学院に行くと、勉強ばかりで自分の視野を広げられなくなる、と思ったそうです。論理

思考、話術、数学については、「何故」を追求、深掘したいとキラキラとした目で話しておられました。自分のやりたい事がしっかりと決まっていればかいくら年をとっても目の輝きは衰えないものなのだな、と思いました。

このディレクトフォースでは、国際社会を生き抜いていく上での知恵を学ぶことができました。私が特に大事だと感じたことは、コミュニケーション能力を身につけること、論理思考を常に意識することです。まだ私達は一年生ですが、一年生といっても時間がたくさんあるわけではありません。未来をしっかりと見定め、やりたいことはやく決定して自分の姿勢を貫いていけるようにしたいです。最後に、このディレクトフォースの場を私達に提供するために働いて下さった全ての方々に感謝を。ありがとうございました。

